

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	失語・高次脳機能障害治療学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期 月曜1限、金曜3限	教室名	第4校舎301
担 当 教 員	丸山めぐみ、山本 陽平	実務経験と その関連資格	【丸山】病院で言語聴覚士として勤務し、成人(脳疾患等)の言語聴覚療法に携わる。 【山本】言語聴覚士として病院勤務、成人領域の言語聴覚療法を行っていた。 訪問リハビリテーション業務にも従事し小児領域の言語聴覚療法を行っていた。			
《授業科目における学習内容》						
失語症、高次脳機能障害についての基礎知識を応用し、評価結果を分析する。 評価のまとめを根拠に、各障害特性に対応したリハビリテーションを実施できる。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
【丸山】①言語聴覚士のための臨床実習テキスト[成人編](建帛社)②高次脳機能障害学第3版(医学書院) 【山本】③失語症学第3版(医学書院)、④なるほど！失語症の評価と治療(金原出版株式会社)						
《授業外における学習方法》						
症状や専門用語の定義を随時テキストを使用して確認する。						
《履修に当たっての留意点》						
評価のまとめ方・訓練立案の方法を理解しましょう。臨床実習を想定し、主体的に授業に参加してください。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例の評価、診断の手順・流れを説明できる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で高次脳機能障害にまつわる専門用語を再確認する。	
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の評価・診断の流れ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	症例報告書の作成方法を理解し、例に倣って作成ができる。	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	症例報告書に記載する項目、順序、まとめ方/ 症例報告書の作成			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害のリハビリテーションの方法を調べ、実施できる①	① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	グループ担当症例の評価結果を整理する			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害のリハビリテーションの方法を調べ、実施できる②	① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	グループ担当症例の訓練方法を調べ、訓練課題を作成する			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	症例情報をまとめることができる①	① 配布資料 各自のPC	①②で症例報告の流れを理解する。各高次脳機能障害の特徴、リハビリテーションを復習しておく。	
		各コマにおける授業予定	担当症例について、発表準備(1)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	症例情報をまとめることができる②	① 配布資料 パソコン プロジェクター	①②で症例報告の流れ を理解する。各高次脳 機能障害の特徴、リハビ リテーションを復習して おく。
		各コマに おける 授業予定	担当症例について、発表準備(2)		
第7回	演習 形式	授業を通じての 到達目標	グループで時間内に担当症例を発表できる①	配布資料 パソコン プロジェクター	発表を聞いて生じた疑 問点について調べる。
		各コマに おける 授業予定	グループ担当症例の発表(1)		
第8回	演習 形式	授業を通じての 到達目標	グループで時間内に担当症例を発表できる②	配布資料 パソコン プロジェクター	発表を聞いて生じた疑 問点について調べる。
		各コマに おける 授業予定	グループ担当症例の発表(2)		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症の評価の流れを理解し説明できる1	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例の評価の流れ1		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症の評価の流れを理解し説明できる2	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例の評価の流れ2		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症例を評価できる1	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例の評価の実際1		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症例を評価できる2	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例の評価の実際2		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる1	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する1		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる2	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する2		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	失語症例に対する訓練プログラムが立案できる3	③、④	教科書、参考図書で失 語症に関わる専門用語 をあらかじめ調べてお く。授業で取り上げた内 容を復習する。
		各コマに おける 授業予定	失語症例に対する訓練プログラムを立案する3		